

平成 30 年度 ソフィアだより 6 月号

あめのおと

あめのおとって

くさにしとしと いけにぼちよぼちよ

ほどうにぴちぴち かさにばらばら

とたんのやねには たんたかたんたか

おもしろいんだけど でも

あんなにたかいたかいてんからふってくる

とちゅうのおとは ああどんなだろう



まどみちお

【研修会でのこと。】

講師の、子育てアドバイザーの原坂一郎さんが、「大人って子どもにむかって文法使って疑問文で怒りますよね?」「ほら、英語の授業で習った 5W1H っていうやつですよ」5W1H というと、What・・・もう、なにしてんの?When・・・そんなんいつしたの?Who・・・だれですか?おしゃべりしてるの?Where・・・ちょっと!どこいくの?Why・・・なんでそんなとこにあがってんの?いつまで食べてるの?.....なるほど、そういうこと言ってるなあと感じました、中川家のお母さんのコントも思い出して苦笑しました。最近の子どもたちは読解力がついていない。といわれますが、まわりの大人の言葉が抽象的で否定的な言葉が飛び交う中で言葉を豊かに習得していくのは難しいし、今の子どもたちの読解力が乏しいと嘆く前にわたしたち大人の子どもへの言動を意識する必要があるなあと反省でした。

今、世界は、歴史的な人手不足となり、アメリカでは 1968 年以来大学進学者が激減しているそうです。16 歳から 19 歳の就職率も 3 人に 1 人という統計がでているようです。ある大手企業は、自作のロボットでブロックを運ぶ大会を開催し、そこで優秀な高校生を就職につなげる企業の戦略もあることも聞きました。アメリカの大物投資家が、大学在学中の学生に 1100 万円起業資金を投資して事業家への道筋をつけることもしているようです。実際に大学を中退し、お掃除ロボットの開発をして事業家になった 21 歳の若者もいました。ビジネスに集中でき大学を辞めたことも後悔していないとインタビューに答えていました。自分の人生をどのようにデザインすることが正しいのか答えはわかりませんが、どのような時代になろうとも、主体的な考えで、自分で人生を選択していく力、考える力を持った人に成長してほしいと願います。その考える力の根幹は言葉の力です。子育てにかかわる大人が時代に流されず、子どもの能力を信じ丁寧にかかわっていかねばと思います。